

国内実態調査報告書

テーマ : 三陸の震災後の復興から、地域活性化について学ぶ
ゼミ名 : 中村 亨ゼミ
調査日 : 2022年9月1日(木)～9月3日(土)
調査先 : シーパルビア女川、はまぐり堂
授業科目名 : ベーシック演習 I・II
参加学生数 : 12名(1年生)

調査の趣旨(目的)

前期の授業で資料を読んで学んだ、石巻市で蛤浜再生プロジェクトに取り組んでおられる亀山さん、女川町で震災後に起業された石鹸工房の厨さん、セラミカ工房の阿部さんに直接会ってお話をうかがい、また一緒に作業をさせていただくことで理解を深める。

調査結果

＜研修初日に石巻市蛤浜を訪れ、そこでカフェ『はまぐり堂』を営み蛤浜再生プロジェクトを行っておられる亀山貴一さんのお話をうかがった。研修二日目は女川町で震災後に起業されたみなとまちセラミカ工房のスペイントイル制作と三陸石鹸工房 KURIYA の石鹸づくりを体験させていただいた。以下は受講生による報告である。＞

『はまぐり堂』

研修旅行の一日目にはまぐり堂に行き、亀山さんからお話を聞きました。はまぐり堂のある宮城県石巻市蛤浜は、震災後災害区域に指定され家を建てられなくなり、集落の家は4軒だけになりました。漁業は衰退し、津波によって過疎化も進行しました。そんな中、亀山さんは「ふるさとを残したい」という思いで、教員をやりながら仲間とともにカフェやレストランを建てる計画をたて始めました。その後教員を辞め、築100年の自宅をDIYしてカフェをオープンしました。蛤浜に人を呼ぶのには、東京にあるものやってもダメだから、土俵をずらし“たたかわない”という戦略をとりました。一緒に作ってきた仲間やお客さんが宣伝したこともあって、2年目には、人が集まりすぎて、急激な変化によって地元住民が住みづらい状況になってしまいました。そんな中、亀山さんは本当に大切にしたいものは人とのつながり、暮らしと文化、生産者の思い、であると改めて気づいたそうです。そしてメディアや団体の受け入れを断るようになりました。亀山さんは人、自然環境、経済の循環を作りたいと話してくれました。蛤浜では増えてしまった鹿を年間1000頭駆除し、捨てていたが、クラウドファンディングで解体所を作りました。また、ビジョンが人を呼び、もともと違う仕事の人が集まり人の化学反応が起こるそうです。消費主義の世の中でお金に頼ることで、生きる技術が失われていったが、生きる知恵や技術は必要であるといいます。亀山さんは蛤浜を飛び越えてコミュニティの一員を作りたいと話してくれました。はまぐり堂は古民家を利用したカフェで、現在は週一の完全予約制でランチ営業を行っています。(執筆者: 受講生 竹内 琴音)

『スペインタイル』

研修旅行 2 日目には女川駅前の商業区域、シーパルピア女川の一角にあるみなとまちセラミカ工房にてスペインタイル作りを体験させていただきました。

素焼き生地に、スポイトで色をつける作業を体験させていただいたのですが、とても細かくて難しく、工房の方の凄さが身に沁みてわかりました。

女川とスペインタイル？と思われるかもしれませんがスペインのガリシア地方は、屈曲したリアス式海岸や人口規模、豊富な海洋資源など、女川との共通点が多くあります。震災後に、このふたつの街に異文化交流の計画が持ち上がりその先駆けとしてのスタートがこのスペインタイル作りだそうです。

実際に女川の街を散策していると至る所にスペインタイルが飾られていて、震災直後の色を失った女川の街にスペインタイルが彩りを添えてくれていてとても温かい気持ちになりました。(執筆者：受講生 保坂 真緒)

『石鹼工房』

研修旅行 2 日目に、石鹼作り体験をしました。シーパルピア女川にある三陸石鹼工房 KURIYA の方々にお世話になりました。三陸石鹼工房 KURIYA は、三陸沿岸でとれる素材の良さを生かしたアロマ石鹼を作っています。アロマ石鹼は、小さくてカラフルでとてもかわいいです。アロマ石鹼の種類は、シルク、はちみつ、わかめ、竹炭、豆乳、カカオ、米ぬか、にんじん、ワインがあります。他にも、石鹼ポプリやペット用のナチュラルソープを作っています。三陸石鹼工房 KURIYA の石鹼は、仙台市内のお店やオンラインでも購入することができます。石鹼作り体験では、はちみつと竹炭のアロマ石鹼を作りました。石鹼作りは、材料を測ることから始まりました。材料は分量通りに測らないと石鹼のできが大きく変わってしまうのでとても慎重にやりました。違いが 0.1ml だけでも調整しました。次に、測った材料をブレンダーで混ぜ合わせました。混ぜ合わせたときに、化学反応が起きて熱くなりました。混ぜ合わせる時は、石鹼が飛び散らないように気をつけました。石鹼の液が完成したら、容器に注ぎ分けて完成しました。作った直後は、化学反応の効果を高めるために、タオルで包んで保温しました。石鹼は、持ち帰ってから、1ヶ月ほど風通しの良いところで乾燥させてから使えるようになります。私は、はちみつの石鹼を作ったのですが、とても良い匂いがして今もキッチン用に使っています。石鹼作りは初めてでしたが簡単にできて楽しかったです。石鹼作りはあまり材料の種類が多くないので、自宅でも作ってみたいくなりました。三陸石鹼工房 KURIYA の方々には、とても優しく石鹼作りについて教えていただけました。(執筆者：受講生 宮地 恵美)



「初日に駅の前で」



「はまぐり堂にて」



「NPO アスヘノキボウによる女川案内」